

1. 教育の責任

病気や障害を持ちながら地域で生活をしている人々やその家族の暮らしに関心を持ち、その方達の意味や価値観を尊重し、自分らしく生きることができるよう支援する看護師を育成していく。

2. 教育の理念

病院では病気の治療やケアが優先されるが、地域で暮らす人々の中には病気や障害とともに生活し、治療よりも生きがいや生き様など本人や家族の意思が優先されることもあり、医療は日常生活のほんの一部である。その中で、医療の専門職である看護師として、その人々の暮らしや思いに目を向け、声を聴き、よりよい生活や自分らしく生きることを選択できるように支援する役割があることを学んでほしい。

3. 教育の方法

【教育の目的と目標】

講義では教科書を中心に在宅看護に必要な基本的な知識や技術を習得しながら、一方で視覚的な教材や実物を使用し、用語としての知識と体験的な要素を組み合わせて理解が深まるよう教授する。また、学生同士でお互いの知識や考えを共有し、学生自身が考える機会を盛り込む。これらのことにより、自身が持っている知識や様々な情報から物事を理論的に思考する力を身に付ける。

【教育実践】

演習では看護師としての在宅における看護技術を実践するだけでなく、援助される側の体験や経験をし、学生同士で振り返ることによって、相手の立場になって考えることや相手の思いや考えを受け入れることを体験的に学ぶ。

実習では、訪問看護師の方と同行訪問する中で、在宅で療養する方とその家族の支援について看護技術の実践等をする中で、本人や家族の考えや思いを尊重し、医療の専門職としての考えや思いをどう融合させていくかを現場で体験していく。また、地域で暮らす人々を支えるには、行政機関や地域の関係機関との連携が不可欠であるため、実際の関係機関との連携を体験し、地域で暮らす人々を支える看護師としての役割を考えていく。

4. 教育の成果

講義では学生同士が話し合う場面や、考えたことを発表する際に協力して発言する様子がある。また発表の内容についても根拠を考えた上で発言できている。演習や実習では、療養者の方にどう声を掛けたらよいか、病院ではない環境でどのように看護技術の提供をするのか、療養者の立場になってどう考えたかなどを学生同士で活発に意見交換をしながら実施できている。

5. 改善への努力と今後の目標

講義では隣の人やグループで話し合う時間や、発表する場面を可能な限り作るようにしている。また受講者が多いため、演習を実施する際には演習場所や演習時間について工夫をしている。今後も学生が主体的に講義や演習などに取り組めるように教材やタイムスケジュールを考えていきたい。

【添付資料】

シラバス